

2006 年度事業

国連

子どもの権利条約
推進事業



■シンポジウム

教育・子育てNPO研修

軽度発達障害の子どもへの理解と特別支援教育の目指すもの

日時: 8月26日(土) 13:30~16:00

会場: 大阪NPOプラザ会議室E

平成19年4月より、全ての小・中学校で特別支援教育が始まり、実際に、小・中学校や各教室で、具体的な支援の中身がつけられていきます。

当事者である子どもたちに本当に必要な支援を届けるために、保護者、学校・教師、専門機関、そして、さまざまな場面で子どもを直接支援している教育・子育てNPOスタッフや居場所スタッフなどがどのように連携し、「特別な支援を必要としている子ども」の発達をサポートする具体的な支援のスキルと連携していくためのアイデアを考えました。

講師: 伊丹昌一

大阪府健康福祉部自立支援課主査

平成15・16年度大阪府特別支援教育推進コーディネーター、

学校心理士・介護福祉士・言語聴覚士、特別支援教育士・

さまざまな親の会顧問

NHK「見てハッスル、聞いてハッスル」番組委員

若者と仕事 これからの就業スタイルを考える

日時: 9月23日(土) 16:30~18:00

会場: 大阪NPOプラザ3Fホール

昨年度、ニュースレターの特集で「ニート」と呼ばれる若者の現状と彼らを取り巻く課題について検証しました。多くの若者がアルバイト、フリーター、派遣という働き方をしていること、またいわゆる「ニート」と呼ばれる若者に対しても、働けないのは個人の問題であるといった報道を目にすることも増加しました。應典院寺町倶楽部との共催で、若者の就業は、個人の努力だけで解決できる課題なのか、私たちはどんな解決策を社会に提起していけるのかを探ることを目的に、若者が自立・挑戦できる社会のあり方について論じ合いました。学校教育でできることとできないことを明らかにし、今後、教育カリキュラムの中でNPOや外部団体との連携のあり方を探ることは十分にはできませんでしたが、就業課題を個人の能力や資質だけの問題に終わらせるのではなく、若者の生き方をどう支援していくのか、次の一手を具体的に探ることが求められています。

話題提供 「今、若者が求めている支援とは」 本田由紀（東京大学大学院情報学環助教授）

対談 学校経由の就業の課題から見える「教育の可能性と限界」

研究者の立場から: 本田 由紀

若者の立場から : 山口 洋典（浄土宗 應典院 主幹）

コーディネーター: 松浦善満（NPO法人関西こども文化協会代表理事、

和歌山大学教育学部教授、和歌山大学付属小学校校長）



シンポジウム

今、求められている居場所 ～居場所の効果と必要性について考える～

日時: 11月18日(土) 13:30～16:30

会場: 大阪NPOプラザ3F ホール

青少年の自立支援と居場所の役割をテーマに、日頃から支援・育成活動を行っているNPO や専門家、教育・福祉・行政などの課題に取り組む議員からの報告や意見交換を参考に、それぞれが活動フィールドに持ち帰り、新たな支援方法のヒントとなるシンポジウムを行ないました。同時に、今後の居場所作りの方向性を探ると同時に、子どもたちに必要な、子どもたちが必要とする具体的な居場所の機能やイメージを出しました。シンポジウムのまとめは、「大阪の市民・NPO が考える子ども・青少年の居場所プラン」として、その場でまとめを行い、参加者に配りました。

基調報告: 「中高生の居場所と青年の居場所、アメリカのオルタナティブスクールの事例調査報告」

中村有美(大阪大学人間科学研究科博士後期課程、フリースクールみなもスタッフ)

コーディネーター: 松浦善満 (和歌山大学教育学部教授・和歌山大学付属小学校校長・NPO 法人関西子ども文化協会代表理事)

シンポジスト

峯本耕治 弁護士・NPO 法人 TPC 教育サポートセンター代表

(教育現場で子どもの課題解決のに向けたケース会議の必要性を啓発する活動、少年事件の背景を分析、「心の居場所」の重要性を訴える活動)

竹内和夫 寝屋川市立第1中学校教諭・生徒指導主事

(小学校と中学校の連携、学校での子どもの居場所作りに取り組む)

大阪市会議員(地域の教育・福祉・大阪市会議員(地域の教育・福祉・行政などの課題に取り組む))

現代の非行を考える連続専門講座

「子ども支援のスキルアップ～寄りそう支援を目指して～」

(NTTドコモ助成金事業、2007年2月から9月までの年度を越えての事業)

全国的に少年事件の凶悪化や再犯率が高まる中、大阪においては少年事件の発生率や再犯率の高さが際立っています。その中で、非行少年の支援に向けて、現場で取り組んでいる、また、親や身近で支援に関わりながら、どう向き合いかを模索している方で集まり、入り口の支援(問題発生直後の対応や、関係機関の役割と機能の理解)から出口の支援(社会に交わるための道筋作り)までを専門的に学ぶ内容で行ないました。NPO の専門性とネットワークの広がりを活かすことで、少年非行の防止だけでなく、非行に走ってしまった後の立ち直りや自立の支援、社会と交わるきっかけ作りを一連の事業として取り組んでいます。

非行問題に取り組む NPO とプロジェクトチームを立ち上げ、連続講座とシンポジウム(2007年度事業)を協働で実施しています。



学習支援事業



次世代育成支援 に関する事業

学習塾「小河学習館」

授業日:毎週土曜日 午後3:00～5:00 教室:難波エール学園

子どもの学力支援を通して子どもの「生き方」を支援し、子どもの学力に応じた学習計画の提供と学習習慣づくりの場の提供を目指し、10月より実施。NPOや企業との連携の中で、就労体験や職業教育を通して子どもの社会参加を促すものにしていく。

基本方針

- 1 ゆるぎない「読書力」と「計算力」を育てる。
- 2 「未来を切り開く学カシリーズ」(文藝春秋社刊)を、ゆったり、長期に取り組んでしっかりした学力をつける。
- 3 温かな家庭づくりのなかで、「早ね、早起き」の健康な生活リズムをつくる。
- 4 自分で計画を立て、自分で実行する力を育てる。

実施内容

館長 小河 勝 (教育評論家・NPO法人関西こども文化協会理事)

対象 小学5年生・小学6年生・中学1年生・中学2年生

内容 子ども自身による数学・国語・英語・理科の学習管理と学習相談
保護者への教育相談

次世代育成応援事業(大阪府委託事業 大阪・次世代育成応援事業)

大阪府次世代育成支援室少子対策課からの事業受託を起点に、子育て環境の改善や整備に向けての取り組みを進めてきました。出産・子育て世代の労働時間が増加と共に精神的なストレスも増え、子育てにかかる時間が減っていることは、様々な統計からも証明されています。子どもとゆったりと向き合う精神的余裕もなくなっている現在、豊かな子育ての時間をつくることは、親と子にとって単純に幸せであるだけでなく、子どもの教育の質を高めることや、地域社会のつながりを強めることなど、社会的にも様々な効果をもたらすことにもなります。また、女性の働く権利に加えて、男女共に「子育てをする権利」を保障するというということも、今後の子育て支援の視点においても重要であるといえます。

子ども・子育てサポートプログラム

このプログラムは、(社)生命保険協会の平成18年度子育て家庭支援団体に対する助成を受けた「子育てパートナーと一緒に学ぶ子ども・子育てサポートプログラム」として、また、ドーン利用促進事業共同体と財団法人大阪府男女共同参画推進財団との協働実施で開催しました。

A.親子参加型体験プログラム

日時:8月20日(土)13:30～16:00 会場:ドーンセンター多目的ルーム

講師:勝浦絹子氏(アトリエ勝浦主宰者) 保育グループカシオペア保育スタッフ

家庭にある身近なもので、すぐできて、何度でも楽しく遊べるおもちゃ作りに親子で取り組み、参加者と一緒に自由に遊びました。スタッフが、保護者のちょっとした不安を聞いたり、乳幼児と過ごすヒントなどを気軽な雰囲気の中で伝えることができました。

B.子ども・子育て支援者のための研修

日時:第1回10月1日(日)10:00~12:00

会場:ドーンセンター中会議室

講師:小崎恭弘(神戸常盤短期大学専任講師・保育士)

日時:第2回10月22日(日)10:00~12:00

会場:ドーンセンター中会議室

講師:遠矢家永子(NPO法人SEAN代表理事・事務局長)

子育てが、「とてもつらい、しんどい社会」ではなく、「子どもを育てる豊かさ、楽しさを感じられる社会」にしていくためには、子どもの成長発達の道筋を学びながら、子どもの視点にたった子育てのあり方を、保護者と一緒に考えるサポーターが必要です。「子どもの視点にたった保育のあり方とは?」「保護者の子育てをサポートする支援者の役割、スキルとは?」をテーマに学びました。

C.パートナーも一緒に!子育てセミナー

日時:第1回 11月26日(日)13:30~16:00

会場:ドーンセンター特別会議室

講師:遠矢家永子(NPO法人SEAN代表理事・事務局長)

日時:第2回 12月3日(日)13:30~16:00

会場:ドーンセンター特別会議室

講師:小崎恭弘(神戸常盤短期大学専任講師・保育士)

今回のセミナーでは、妻と夫がお互いに父親・母親について考えながら、子育てにおけるパートナーシップをどう構築していくのか分かり合うことから助け合える子育て、家族の役割について考えました。

また、第2回目のセミナーでは、(株)ベネッセ・コーポレーションと神戸常盤短期大学、ドーンセンターと共催で、ベネッセ次世代育成研究所より乳幼児の父親についての調査結果報告プレゼンテーションとワークショップで、これからの子育て支援のあり方から、夫婦共同での子育ての大切さを考える時間となりました。

教育・子育てNPO研修 NPOのための子育て支援ステップアップセミナー

日時:2月6日(火)10:00~15:00

会場:大阪NPOプラザ会議室D

子育て支援に関わるNPOスタッフや行政担当者に向けて、それぞれの団体や支援者が目指す子育て支援のあり方を明確にし、次年度の事業企画立案のスキルアップを目指すために、ワークショップ形式で学びました。

ファシリテーター:栗本敦子(Facilitator' LABO えふらぼ)





一時保育事業

保育グループ”カシオペア”では、保育を通した子育てへのサポートを目指し、「こどもも おとなも、ありのままにゆつくりと」をモットーに活動を行っています。

外部団体から依頼のあった保育数は、2006 年度は25件と、2005 年度の17件に比べ増加しました。

主催団体からの問い合わせに対し、密な打ち合わせや、子どもの様子の把握、会場の事前下見、子どもの年齢に応じた保育スタッフ数の確保等、事前準備を重ね、当日の保育に備えています。

当日は、子どもの年齢や様子にあわせた保育を行っており、一度保育を行った団体からの信頼は高く、その後、継続して保育依頼を受けることも増えてきています。

その他、ドーンセンターで開催されるセミナーや会議などの保育に対しては、ドーンセンター「こどものへや」の運営を受託している当団体へ、主催団体から直接保育依頼があるケースも多くあります。

また市民に向けては、保育ボランティアの受入れを行っています。募集はホームページやインファノ等を通じて随時行っており、登録スタッフは、2007 年 3 月現在で61名となりました。

より質の高い保育を行っていくため、前年に引き続き当会主催の子育てセミナーへの参加も研修と位置づけるなど、研修の充実化を図っています。

2006 年度一時保育実績

	件数	子ども数	保育者数	保育時間
5月	1	1	2	2
6月	1	22	20	25
7月	1	8	8	4
8月	2	11	10	14
9月	1	3	2	2
10月	1	10	6	5
11月	3	48	31	26,5
12月	4	41	27	20
1月	2	7	12	15
2月	2	14	7	6,5
3月	7	61	38	21,5
合計	25	226	163	141,5

企画提供事業(他団体への企画提供、講師派遣)

いずみ市民生協の子育て支援事業「親子あそびのひろば」のスタッフ養成講座の企画と講師派遣を行ないました。また、ミーティングファシリテーターの養成講座や運営スタッフの養成講座などの企画、講師派遣も行ないました。

企画・情報提供 事業

情報提供事業(情報誌「インファerno」の発行、ホームページの運営)

広報部ではニュースレター、ホームページを2本柱として取り組んできました。今年度は、「関西こども文化協会ニュースレター」の製作を外注し、名称を「インファerno」(エスペラント語で子どもの意、kov/iは“抱いている”という意味。英語のインキュベーター—孵化する—と同義語。子どもを大事に抱えて育てながら、社会へ飛び立ってほしいという願いを込めています。)に改変しました。

年間特集「現代若者家族論」と題して、4回にわたり、現代の若者・子どもにとって家族とは何なのかを考えたいと思いました。個人の生き方が多様化し、家族の形態、役割も変化してきた現代社会において、これから彼らがどのような生き方を選択し、次世代の家族をデザインしていくのか、読者と一緒に考え、家族を見つめなおしていきたいと考えました。

子どもや若者の声に耳を傾けることを念頭におき、現代の子どもを取り巻く「少年非行」「学力問題」「いじめ」などの様々な問題に対して、専門家・研究者による提言と合わせて、NPO や行政・企業などの取り組みの現状と課題を社会に発信していきます。また、「子育て支援」「次世代育成」に関する行政や企業、NPO の情報を掲載、親や教師などの支援者にも役立つ内容をめざしてきました。

また、大阪府の受託事業「次世代育成応援ポータルサイト e-life navi」と、掲載内容の連動にも努力しました。ただ、他の事業との兼ね合いから、発行回数が当初予定の4回が果たせず、半分の2回で終わってしまったことは、事業全体の進行状況と照らし合わせて大きく課題として残りました。

次年度も社会の新たな動きに敏感にアンテナをはり、NPO・研究者そして市民とネットワークを組みながら、子どもたちがいきいきと育つ社会を目指し、発信していきたいと思えます。

インファerno21

特集①『家族を語ろう』

●座談会「私にとって家族とは」

●座談会「私にとって家族とは」について

古宮昇(臨床心理士・大阪経済大学人間科学部准教授)

●NPO 法人 関西こども文化協会

「子ども・子育て支援プログラム」

●ポータルサイト「e-life navi」

●会員学習会報告

「子どもの成長発達の権利をどう保障するのか」

●子ども支援に関わっているスタッフとこれから支援者をめざす人・必修講座 Vol.1

「軽度発達障害の子どもを理解と特別支援教育のめざすもの」

●子どもの社会参加「もっと知ろう大阪府」

●リレートークPTC『笑い』って何？

人材派遣事業

相談事業

インファノ22

特集②『家族の役割』

- 「子どもがいじめにあったとき親ができること」

古宮昇(臨床心理士・大阪経済大学人間科学部准教授)

- 「今、いじめ問題の解決のために大切なこと-心配な日本のいじめ対応」

松浦善満(和歌山大学教授・和歌山大学附属小学校校長・関西子ども文化協会代表理事)

「心を育てる」

中野典子(不登校問題を考える東葛の会世話人)

「私は人間になりたい」

山下耕平(NPO 法人フォロ)

「ゆっくり愛してあげてください」

竹内和雄(寝屋川市立第一中学校生徒指導主事)

- シンポジウム「今求められている居場所～居場所の効果と必要性について考える～」

- パートナーも一緒に！子育てセミナー

「分かり合えれば、助け合える 安心できる！子育てセミナー」

- 子どもの社会参加「OUR LIVE」

- リレートークPTC『笑い』って何？

学童指導員派遣事業・保育者派遣

枚方市教育委員会のパイロット事業受託に伴い、人材派遣業者の資格を取得し、枚方市運営の留守家庭児童会室へ「留守家庭児童会室/パートナー」や一時保育の依頼による、保育グループ「カシオペイアの保育者」派遣(登録者数61名、のべ派遣人数163名 保育子ども人数226名)を行ないました。

大阪市教育委員会委託事業 いじめ 24 時間電話相談業務

大阪市教育委員会との協働で、子どもや保護者等からのいじめに関する相談を24時間体制で実施しました。当会では、土、日、祝日の24時間と夜間の電話相談・対応を担います。電話相談員の養成や継続的な研修も実施しました。また、電話相談以外でも不登校などの相談を受け、関係する機関や団体、NPO の紹介も行なっています。

受託事業



1)平成 18 年度子ども議会運營業務受託事業

今年度の子ども議会は、大阪府内の小学5、6年生を対象に大阪府の仕事や議会の役割などを学び、大阪府議会議場での議員の仕事体験などを通して、府政や社会に対する理解と関心を広げることを目的に実施しました。

進行役を務める学生リーダーを募り、栗本敦子氏(えふらぼ)を講師にファシリテーターの研修を行ないました。8月18日にワークショップで事前学習会を行いました。子どもたちで府庁探検隊を組み、環境情報センターや府警本部、教育政策室、税務室などを取材し、府政クイズを作成、22日の大阪府府議会の本会議場での質問につなげました。午後からは、貝塚市の明治乳業に工場見学に出かけ、知事と子どもたちの交流会を行い、工場見学の感想などを出し合いました。

2)大阪・次世代育成応援事業

子育て支援や次世代育成支援に取り組んでいるNPOと行政情報を掲載するポータルサイトの開発、運営だけでなく、枚方市と阪南市の2ヶ所で地域のNPOと「子育てタウンミーティング」を協働実施、

また、大阪総合保育大学と大阪府との協働で「次世代育成シンポジウム・結婚・子育て・仕事・家庭 ～私にとってのベストバランスを見つけるために～」を開催。20代から50代の男女がそれぞれ考えるライフ・ワーク・バランスについて意見交換しました。

3)ドーンセンター「こどものへや」一時保育事業

2006年4月から、ドーンセンター管理部門に指定管理者制度が導入され、一時保育事業の実施については指定管理者「ドーン利用促進事業共同体」に移行することになりました。それに伴い、新たな枠組みでの協働事業となり、受付事務だけではなく「こどものへや」運営全般についての責任を担うことになりました。保育問い合わせや申し込み時の対応、保育開始時と終了時の保護者への関わり方を丁寧に行なっていることが、保護者の安心につながり、昨年度より保育申し込み人数の増加と子育てサークルなどの団体申し込みの増加につながったと考えています。

2006年度ドーンセンター 利用活動実績

	子ども数 (申込者数)	子ども数 (参加者数)	保育者数	総保育時間
合計	648	495	308	898

<2006年度受託事業内容>

保育申し込み受付業務・保育者配置業務(事務所にて)

月曜日～金曜日 13:00～17:00 メール・電話・FAX・郵送

一時保育受付業務と保育(ドーンセンター3階こどものへやにて)

* 毎週木曜日 9:15～12:30 13:15～16:30

* 毎月第2・第4火曜日 9:15～12:30

* ドーンセンター主催講座、協働事業の保育

こどものへやを活用した企画提案、保育者研修、一時保育事業の活性化に向けた提言など

4) 枚方市立留守家庭児童会室指導員派遣事業

昨年度より枚方市教育委員会との協議を進め、9月より枚方市運営の留守家庭児童会室に、関西子ども文化協会より枚方市民である「留守家庭児童会室パートナー」を派遣し、市の指導員とともにその運営を行う中で放課後における児童の健全育成を行っています。

今回の事業に際して、人材派遣業の資格を取得(大阪労働局特定労働者派遣事業届出受理番号特27-301244)し、枚方市とパートナーシップのもと事業を実施しています。

女性2名、男性1名の3名のスタッフを雇用し、当会のミッション、子どもの権利条約、子どもを取り巻く課題や行政との協働のあり方など研修を重ねながら、毎日2名のシフトを組んで、小学校1年生から4年生の児童102名の放課後の育ちをサポートしています。

また、枚方市指導員研修の企画・運営にも協力しました。

5) 子どもの居場所事業

1. 子どもの居場所について

不登校の状態にある子どもたちが、安心して集え、遊び、学び、触れ合い、成長できることを、第一の目的として実施してきました。しかしながら、初めて居場所に来た時の子どもの大半は、緊張が高く無表情で、人と話すことも目を合わすこともできないという状態です。また、無気力で無関心でもあります。居場所では、このような子どもの状態を、子どもから発せられる重要な「サイン」として考えました。サインを発している子どもたちにとって必要な支援は、「もっとこうしてあげたい」「もっとこうなればいいのに」という、一方的な大人の愛情の押し付けではなく、「その子のありのままを受け入れる」ことです。

そのために、個別カルテを作成し、その日に居場所で行った活動、子どもから発せられた発言や行動、状態を細かく記載しました。この個別カルテを作成したことにより、多方面からその子を知ることができ、また、小さな「サイン」でも見逃すことなく、発見することができました。そして、長期的なその子の活動や行動を時系列で把握することにより、サインを発する子どもの背景が見えてきました。

子どもは、「ありのままの自分が受け入れられている」と実感すると、自ずと変化を見せ、いろいろな人や物、活動に興味・関心が広がり、集中力が出てきました。そのような子どもの変化も、私たちにとって、次のステップにつなげる重要な「サイン」でした。意欲的に活動に参加するようになった子どもたちからは、“居場所”での活動を充実させたいという思いから、屋外活動の提案、誕生日会の提案、お楽しみ会の提案などがありました。

昨年度はそのような子どもたちの声に伴い、秋と春の屋外活動、お誕生日会、クリスマス会、卒業生のためのお別れ会を開催しました。

2. 今後の課題

このように、不登校の子どもたちが主体となり安心して成長・発達できる場所は、とても限られています。子どもの居場所事業を通して、多くの大人が子どもに関心を向け、温かく子どもを見守り、子どもをありのまま受け入れることの必要性を感じました。

また、温かく子どもを受け入れる体制をより充実させるために、子どもたちの在籍校との連携、その他公的機関との適切な連携を行っていくことも今後の重要な課題だと考えます。

6)24 時間いじめ電話相談事業

大阪市教育委員会では、各地でいじめにより児童生徒が自ら命を立つという痛ましい事件が相次いで発生したことをふまえ、午前10時～午後8時までの「一いじめゼロ・ホットライン」として、相談に応じてきました。その中で、いじめの未然防止、早期発見、早期対応をより確実なものにするために NPO 法人関西子ども文化協会と協力し、夜間、および土・日・祝を含めて毎日24時間電話いじめ相談を実施することになりました。

登録相談員:22名

対応時間:平日19:00～9:00(土・日・祝は24時間対応)

相談の対象者:大阪市立の校舎在籍者・保護者、それ以外(18歳以上の成人)

『いじめ』、教育相談、学校に対するクレーム、自殺の恐れのあるケース
電話相談員研修内容

1月9日(火)いじめの定義、電話相談について

講師:松浦善満氏(和歌山大学教育学部教授)

柳瀬真佐子(NPO 法人関西子ども文化協会)

1月10日(水)大阪市における教育相談のあり方

講師:梅津正明氏(大阪市教育センター教育相談室総括指導主事)

1月13日(土)傾聴トレーニング2コマ

講師:古宮昇氏(大阪経済大学准教授・カウンセラー)

1月17日(水)受けての心得

講師:島久美子氏(NPO 法人子ども劇場和歌山県センター理事)

1月20日(土)開始直前トレーニング

講師:柳瀬真佐子(NPO 法人関西子ども文化協会)

1月27日(土)傾聴トレーニング

講師:古宮昇氏(大阪経済大学准教授・カウンセラー)